

エンベディッド・ライブラリアンを目指して

-病院図書室の課題解決に向けたビジネス・フレームワークの活用-

佐藤正恵

千葉県済生会習志野病院図書室・患者図書室／放送大学大学院（情報学専攻）

図書館経営；病院図書館；図書館員；現職研修（図書館）

【背景】 病院図書室は、医療法第 22 条にて地域医療支援病院に設置が定められた施設である。臨床研修指定病院には、図書・雑誌や MEDLINE 等のデータベースの導入が求められており、EBM 診療の推進、患者図書室の運営など、信頼できる医療情報提供に病院図書室担当者の果たすべき役割は大きい。しかし担当者はソロ・ライブラリアンであることが多く、親組織内における存在感を示し、理解を得ることに困難を伴う場合もある。

筆者は 2010 年に病床数 400 床の急性期病院である A 病院図書室に司書職として入職した。当時の図書室は院内の認知度・利用度が低く、研究資源も有効ではない状態であった。そこで 10 年の長期計画を立て、3 年毎の中期フェーズに分けて活性化を図ることとした。

【課題】 解決すべき課題は以下の通りであった。

1. 図書室・司書の専門性の院内での認知度が低い。
2. 図書室の閲覧環境が整っていない。
3. 図書室運営コンセプトが曖昧であり、ゴールが共有されていない。
4. 予算と実績の積算、成果が曖昧である。

⇒ 即ち、研究・教育資源（蔵書）と人的資源（司書）が活かされていない。

【方法】 課題解決のため、まず法令・省令等で病院図書室のミッションとゴールを再確認し、以下に挙げた既存のビジネスフレームワーク等を適宜使用した。

1. 現状分析：SWOT 分析
2. マーケティング，ターゲティング，ポジショニング，ブランディング
3. 部分最適と全体最適
4. 交渉学（Win-Win）
5. ロジカルシンキング，ロジカルライティング（MECE／So What, Why So）
5. トヨタ式カイゼン（ハーフコスト／現場主義）
7. ブルーオーシャン戦略

⇒ 司書は物品の管理中心的業務から、利用者サービスにシフトし“エンベディッド・ライブラリアン”へと役割を転換する。

【結果】 第一フェーズの 3 年間で終了し、一定の成果をあげることができた。

1. 根拠ある予算による費用対効果
2. 学術環境の整備（データベース導入，NACIS-CAT 参加等）
3. 利用者数増加（20 倍）
4. 独立した場所・閲覧席の確保
5. 図書室と司書の専門性の認知，信頼の獲得

【考察】 ビジネスフレームワークの活用は全ての仕事の基本であるが、病院図書室が客観的・戦略的に自らのミッションを果たすためにも有効である。